1500

しのびよる秋

「ドアの外の
あきかぜ」いきおいにかげりが見える
「ゆり」大きいつぼみかと思ったら「ぬ」だ
秋春の用意 充分にしている
草がしげっているのに
出の声 一度もきくことなかった
「カレンダー」は知らないうちに十月の半ばを
すぎている
あつかったり 冷えこんだりの日が
つづいていた
着ているものは 冬用のセーター」になって
いる べットのへりに腰かけていると
足裏がさむい
いつの間にか暦秋になった「ようだ
あついお茶が おいしいと感じるころと
なった
寒くなったら 大変と 用ゼっていたが
寒くなって まらと
寒くたっていい とおちついている

着る物布団と　たさわぎしていたのが
うそのようだ
冬のいろいろのオタワグ
テーブルの上で　蛍そうだ
見るのをやめて　そのまま　がみくず箱へ
入れて　ほっとする
本当の冬になってしまえば　それでいいと
なっとく出来る
冬をむかっている時は　さびしさが
たまらなくて　んが下をむいてしまいそう
どうして秋はさびしいの
こたつにもぐって　「みかん」をたべていた
あの　ほっと出来た　かんきょうは
見あたらない

2022
10/17